

浜頓別町

田中 聡

1. 概要

浜頓別町は、日本の最北稚内市からオホーツク海沿いに 90 km南下した宗谷支庁管内の南部に位置し、面積は 401.56 km²・地勢はほぼ平坦で北緯 45 度、平均気温 5 前後と冷涼な気候である。浜頓別町の地名は「ト・ウン・ベツ」から由来しており、語源は頓別を表していて、アイヌ語で「湖沼に入る（行く）川」との解釈が定説である。

東部には、オホーツク海があり「毛がに」「ほたて貝」「さけ」などの水揚げがあり、この地域で取れる「さけ」は「めじか」といって最も高級なものとして有名である。

春には、オホーツク海に流氷が接岸し、オジロワシが飛来してくる。また、明治初旬までさかえたゴールドラッシュでは「東洋のクロンダイク」と呼ばれ、2 万人以上が一攫千金を夢見て繁栄したことにちなみ、「ウソタン砂金フェスティバル」を行っておりその大会優勝者には、世界大会参加の権利が与えられ 7 回以上の参加をしている。2002 年 8 月には、「世界砂金堀浜頓別大会」が実施され、世界各地から参加し機運が高まった。

2. 歴史

1670 (寛文 10)	「つんべつ村」として初めて頓別の地名が記録される（「津軽一統志」）
1898 (明治 31)	ウソタンナイ上流で砂金産出
1899 (明治 33)	ウソタンナイ砂金区で日本最大の金塊発掘
1916 (大正 5)	枝幸村から分村 頓別に役場設置
1918 (大正 7)	音威子府-浜頓別間に鉄道開通
1951 (昭和 26)	頓別村を浜頓別町と改め町制施行・庁舎落成
1954 (昭和 29)	ウソタン砂金地閉山
1985 (昭和 60)	国鉄興浜北線廃止
1989 (平成元)	JR 天北線廃止 クッチャロ湖がラムサール条約の登録湿地に指定
2001 (平成 13)	町制施行 50 周年・開村 85 周年記念事業 浜頓別町役場庁舎落成
2002 (平成 14)	世界砂金堀浜頓別大会開催

3. 自然環境

・位置・面積

東経 142°8 ~ 142°30

北緯 44°16 ~ 45°11

面積 401.56 km²

・気象（平成 14 年）

平均気温 5.7

最高気温 30.1 （9 月 2 日）

最低気温 -19.5 （12 月 30 日）

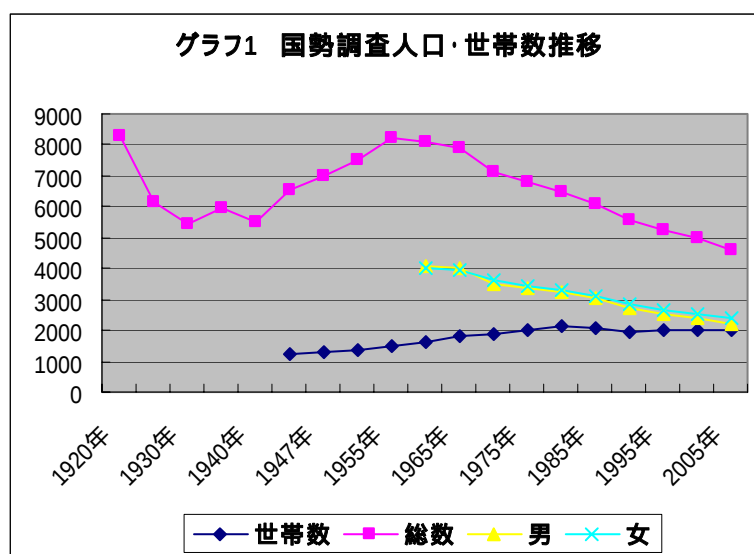
降 水 量 1137mm



図 1 浜頓別町の位置
（出典：北海道ロマン紀行）

4. 人口

年 次	世帯数 (数)	人 口 (人)			一世帯当り 人口 (人)
		総数	男	女	
1920 年		8,277			
1925 年		6,138			
1930 年		5,454			
1935 年		5,971			
1940 年		5,529			
1945 年	1,211	6,555			5.4
1947 年	1,292	6,992			5.4
1950 年	1,341	7,543			5.6
1955 年	1,476	8,231			5.6
1960 年	1,606	8,074	4,072	4,002	5.0
1965 年	1,829	7,927	3,998	3,929	4.3
1970 年	1,897	7,130	3,480	3,650	3.8
1975 年	2,036	6,800	3,375	3,425	3.3
1980 年	2,148	6,503	3,210	3,293	3.0
1985 年	2,086	6,117	3,039	3,078	2.9
1990 年	1,937	5,573	2,728	2,845	2.9
1995 年	1,975	5,224	2,547	2,677	2.6
2000 年	1,997	4,957	2,428	2,529	2.5
2005 年	2,014	4,588	2,214	2,374	2.3

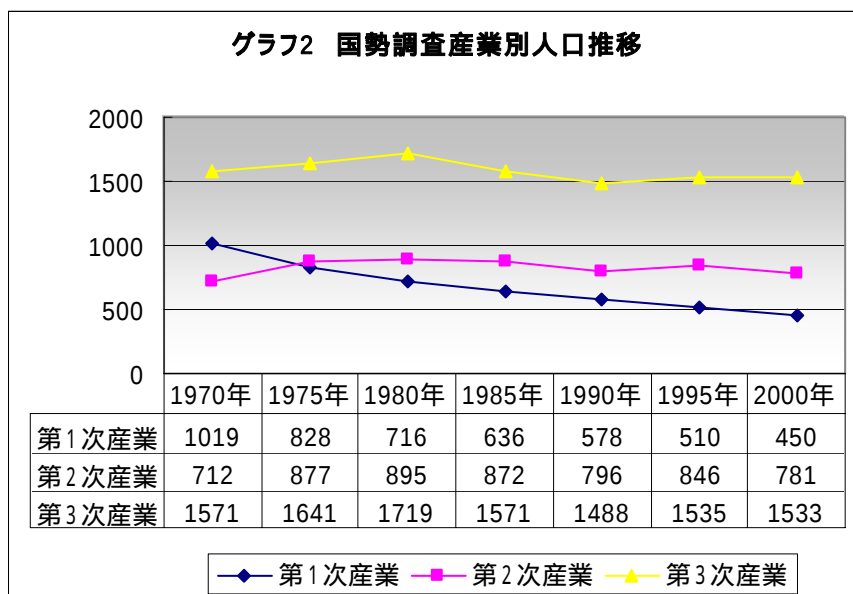


浜頓別町の人口は平成 17 年 10 月 1 日現在 4588 人で宗谷管内人口(75665 人)の 6.06 %を占めている。人口の推移を見ると、戦後は 1955 年をピークに減少し続けていることがわかる。近年の減少率は多少鈍化しているが依然として減少傾向を見せている。現在の人口は、戦後のピーク時の 1955 年と比べて約 56%になっている。また、人口密度は 11.4 人 / km²で宗谷管内の平均 19.9 人 / km²よりも低くなっている。一方、世帯数は 1975 年以降、ほとんど横ばい状態であるが、ここ数年ではわずかに増加している。この影響もあって一世帯あたり人数は減少を続けている。

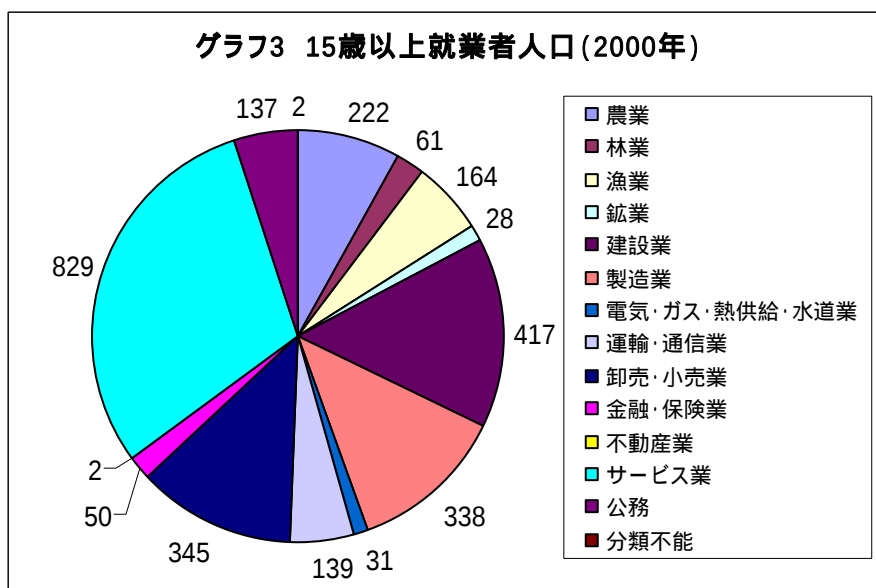
また、過疎化と高齢化が進んでいる。これは、今後も進行していくだろう。全町的な課題といえる少子高齢化社会の進展を踏まえ、高齢者や子育て支援などの機能の導入等により、町民のコミュニティ向上に関する基盤づくりを行っていく必要があるように思われる。

5. 産業・経済

5.1 概況



この産業別人口のグラフを見ると、第1次産業の就業者数は1970年以降減少を続けている。第2次産業は1970年以降多少の変動はあるが、ほぼ一定のまま推移している。第3次産業も第2次産業と同様に、ほぼ一定のまま推移している。また、人口の推移（グラフ1）から見てわかるように、浜頓別町の人口は減少傾向にあるので、その影響を受けて今後は就業人口は全体的に減少していくことが予想される。このように産業については停滞している状況であり、今後ともこれらが増加、発展に転じることはなかなか容易ではないと推測される。また、第1次産業、第2次産業では就業者の高齢化も進行している。そのため、今後は集落の維持や保全、地域経済の活性化の原動力として、管外からの新規就業者や後継者の確保が必要不可欠な課題になっていくであろう。



また、15 歳以上の就業者で最も多い業種はサービス業で、建設業、卸売り・小売業の順で就業者数が多い。ところが、浜頓別町は酪農業と漁業を中心とした第 1 次産業を基幹産業とし、第 2 次産業は建設業、乳製品や水産加工製品などの地場生産原料を主体とした製造業や加工業を中心としている。

次に基幹産業である漁業と農業についてさらに詳しく見ていく。この 2 つの産業はどちらも就業者数が 200 人前後と少なく、年々減少を続けている状況である。また、どちらも、就業者の高齢化、後継者不足という大きな課題を抱えている。

5.2 漁業

浜頓別の農業は漁獲主体の沿岸漁業で、稚貝の移植放流で全漁獲高の 7 割以上の実績を挙げているホタテ貝をはじめ、漁獲量を制限し資源管理を徹底する毛ガニ漁、サケ・マスのふ化放流による養殖事業など、環境への配慮から育ててとる資源栽培型漁業を実践している。

漁業就業者数 164 人（男 122 人、女 42 人）

漁業世帯数 125 世帯（個人漁業経営体 34 世帯、漁業従事者世帯 91 世帯）

魚種別漁獲量上位 5 種（合計 20,750 t）

- | | | |
|------------------------|----------------------|-------------------|
| 1 . ほたてがい (19,961 t) | 2 . さけ・ます類 (466 t) | 3 . たこ類 (149 t) |
| 4 . するめいか (18 t) | 5 . ほっき貝 (9 t) | |

5.3 農業

豊かな自然環境と広大で肥沃な天北原野に恵まれた浜頓別町の農業は、酪農を中心に発展してきた。北緯 45 度、年平均気温 5 前後と冷涼な気候は、牛が病気になりにくく品質のよい牛乳を生産できる。現在では農業就業者数、農家戸数ともに減少が進んでいるが、経営規模の拡大が着実に進んでいる。

農業就業者数 222 人（男 127 人、女 95 人）

農家戸数 107 戸（自給的農家 6 戸、販売農家 101 戸）

内専業農家 69 戸（64.5%）

農業産出額上位 3 種（合計 263 千円）

- | | | |
|--------------------|-------------------|-----------------|
| 1 . 乳用牛 (261 千円) | 2 . 肉用牛 (16 千円) | 3 . 花き (1 千円) |
|--------------------|-------------------|-----------------|

6. 観光、イベント

6.1 観光入り込み客数（2002 年度）

273,037 人（道外客 159,180 人、道内客 113,856 人）

6.2 観光名所

【クッチャロ湖】

北オホーツク道立自然公園の中心クッチャロ湖は、周囲 27 km のかん水湖で、大小二つの湖からなる日本最北の湖である。湖畔一帯は環境庁国民休養地に指定され、国民宿舎、白鳥公園、キャンプ場などが整備されている。恵まれた大自然の中に数多くの野鳥などが生息し、春と秋の渡りのシーズンには、多くのかも類とコハクチョウが飛来する。1989 年にラムサール条約による登録湿地に指定された。



図 2 クッチャロ湖
（出典：浜頓別ガイド）

【ベニヤ原生花園】

ベニヤ原生花園は国道 238 号と、オホーツク海にはさまれた 330ha にわたって広がる原生花園である。ハマナス、ヒオウギアヤメ、エゾカンゾウ、スズランなど百種以上の草花が群生する。



図 3 ベニヤ原生花園
（出典：浜頓別ガイド）

【ウソタンナイ砂金採掘公園】

明治 31 年発見されたウソタンナイ砂金地は、「東洋のクロンダイク」と評され、以来、3 回のゴールドラッシュが訪れた。昭和 63 年、ウソタンナイ砂金発見 90 周年を記念して「ゴールドハウス」を建設。内部にはウソタンナイ砂金地の歴史と物語、写真と黄金の土産品を展示している。

【出典】

- ・ 浜頓別町役場ホームページ

(<http://www.town.hamatonbetsu.hokkaido.jp/>)

- ・ フリー百科事典ウィキペディア

(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B5%9C%E9%A0%93%E5%88%A5%E7%94%BA>)

- ・ 市町村の姿 - 北海道浜頓別町

(<http://www.toukei.maff.go.jp/shityoson/map2/01-03/512/>)

- ・ 浜頓別町ガイド

(<http://www2.ocn.ne.jp/~abstract/212guide/08souya/hamatonbetsu/hamatonbetsu.htm>)

- ・ 宗谷支庁ホームページ

(<http://www.souya.pref.hokkaido.jp/main/index.html>)